

様式第2（第5条関係）

会議録

- 1 附属機関の名称
犬山市総合計画審議会
- 2 開催日時
令和7年1月20日（月） 午後7時00分から午後8時00分まで
- 3 開催場所
犬山市役所 2階 205会議室
- 4 出席した者の氏名（順不同）
 - (1) 委員 増田 修治、鈴木 伸太郎、宮地 勝則、紀藤 秀夫、
玉置 久美子、原 好恵、鈴木 誠、水内 智英、鈴木 温、関谷 みのぶ、
松浦 恵子、酒向 和美、中山 有香、佐曾利 吏佐、藤本 雅己
 - (2) 執行機関 井出経営部長、古田企画広報課長、若山企画広報課主査補、
吉田企画広報課主事、羽賀企画広報課主事補
- 5 議題
 - ・第3回審議会での意見等への対応【報告】
 - ・『いいね！いぬやま総合戦略2025-2030』素案について
- 6 傍聴人の数
0人

7 内容

(1) 開会

事務局（古田）	<p>定刻となりましたので、ただ今より令和6年度最後になります「第4回犬山市総合計画審議会」を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、お忙しいところご出席いただき、誠にありがとうございます。本日進行を務めます、企画広報課の古田です。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに鈴木会長からご挨拶をお願いいたします。</p>
---------	--

(2) あいさつ

鈴木会長	<p>皆さん、こんばんは。今回の審議会も、本日は今年度最後の総合計画審議会ということで、1年間ありがとうございました。今日が第4回目の犬山市総合計画審議会ですが、資料の内容についてはこれまでの間、委員の皆様方から、より具体的にご指摘やご提案をいただいたので、それを反映する形になっていると思います。ただ、どうしても再確認しなくてはいけないこととか、微調整などもあると思いますので、それについてはご発言をいただき、事務局にお任せいただきまして、とりまとめができるような運びでお願いしたいと思います。</p> <p>そして最後に市長に答申をさせていただこうと思っています。</p> <p>どうぞ最後までご協力のほどよろしくお願いいたします。以上です。</p>
事務局（古田）	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日の会議ですけれども、委員総数15名のうち、15名全員ご出席いただいておりますので、会議の定足数に達しております。本日の会議の成立をご報告させていただきたいと思います。</p> <p>また、本会議は「犬山市附属機関等の設置及び運営に関するガイドライン」に基づき、会議資料並びに会議録を市ホームページで公開させていただいております。会議録作成のため、音声の録音をさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日の会議は、お手元にお配りをしていきます、次第に従い進めさせていただきますが、すべての議事が終わりました後、本日の会議資料であります総合戦略の案を添えて、鈴木会長の方から市長の方に答申をいただくという予定をしております。</p>

(3) 資料の確認

事務局（古田）	<p>続きまして資料の確認をさせていただきます。順に確認をお願いいたします。</p> <p>まず事前にお送りをいたしました次第になります。続きまして委員名簿、続きまして、「いいね！いぬやま総合戦略2025-2030」の案、A3横の資料、カラー印刷をしています。続きまして参考資料1、第3回審議会での意見とその対応、A4横のホチキス留めになります。続きまして参考資料2、ずっといぬやま応援団のチラシでカラー刷りのA4の資料になっております。</p>
---------	---

	<p>また机の上に、用語解説の資料をお配りしております。不足等ございます方いらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。</p> <p>それでは、早速議事に移ります。議事の進行は鈴木会長をお願いいたします。</p>
--	--

(4) 議事

鈴木会長	<p>はい。それでは、ただいまから私の方で議事の進行を進めさせていただきます。よろしくをお願いいたします。</p> <p>まず、本日の議事をご覧の通り2点ありますが、その前に、「犬山市附属機関等の設置及び運営に関するガイドライン」第8条の規定で、原則公開という形を最後までしっかり取りたいと思いますが、なお本日の傍聴者は特になしでいいですか。</p>
事務局（古田）	なしです。
鈴木会長	<p>はい。審議会の決定によって、非公開とすることができますけども、今日はお見えになりませんが、公開という原則のもとで進めていきたいと思えます。</p> <p>それから、本日の会議録の署名人ですけれども、関谷委員と、松浦委員にお願いしたいと思いますけども、よろしいでしょうか。</p>
関谷委員	はい。
松浦委員	はい。
鈴木会長	<p>ではお認めをいただきまして、進めていきたいと思えます。</p> <p>それでは本日の次第をご覧ください。</p> <p>まず、議事の1つ目が、第3回審議会での意見等への対応という報告という形になります。こちらの方を事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局（古田）	<p>はい。議事の1つ目、第3回審議会での意見等の対応について説明させていただきます。</p> <p>お手元の参考資料1をご覧ください。こちらが第3回審議会での意見とその対応ということで、1ページ目がAグループのグループワーク、4ページ目がBグループというように各グループでの意見について、私どもの対応ですとか考え方を示させていただいている資料になりますので、ご確認いただきたいと思います。</p> <p>説明は以上です。</p>
鈴木会長	<p>はい。それでは、何か質問などありますでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは(2)の方に移りたいと思えます。議事の2つ目ということで、「いいね！いぬやま総合戦略2025-2030」の案について、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局（古田）	<p>続きまして議事の2つ目です。「いいね！いぬやま総合戦略2025-2030」についてご説明をさせていただきます。</p> <p>お手元に配付させていただきましたA3の資料になります。前回の会議ではこの資料の15ページ以降の部分について、資料のように表の形でお示しさせていただきました。本日お配りしている資料が冊子にしたときのデザインのレイアウトになっておりますけれども、その形に内容を落とし込んだものとなっております。</p> <p>1点ご覧いただく際のご案内ですけれども、この資料を1ページ目から目を通しまして、赤字で書いてある部分が、前回の資料からの変更点となっております。従いまして、15ページ以降につきましては、第3回るときに資料としてお出ししたものから変更になっているものが赤い部分となっております。ただ、一方、資料中の3ページと4ページ、ご覧いただけますでしょうか。この部分には犬山市の特徴と</p>

	<p>課題の整理という内容をそれぞれテーマに掲げて記載をしておりますけれども、このページの赤文字については、現在の「第2期いいね！いぬやま総合戦略」の内容からの変更箇所を赤い文字で書いてございます。この赤い部分につきましては、前回の会議でもご報告差し上げました、市民アンケート調査ですとか、統計情報ですとか、そういったものを踏まえて、赤文字で訂正をさせていただいているという内容がこちらのページの変更となっております。</p> <p>戻りまして、15ページ以降につきましては、第3回の意見の中で、意見いただいたものについては、18ページの上の方にありますようにこの部分が第3回の意見を反映していますよ、という形で少し四角囲みで書いてあります。同じく22ページの⑫のテーマについてもたくさんの皆さまからご意見いただきました。市役所の表記も「行かなくてもよい市役所」という形で、皆さんの意見を修正したものをこの表で表しております。</p> <p>今回新たにご提案をさせていただいている内容は、15ページ、23ページ、31ページにそれぞれあります、基本目標ごとの目標指標。こちらは今回初めて数値として提示をさせていただいております。現在の「第2期いいね！いぬやま総合戦略」の目標指標からは、基本的に変更しておりませんが、唯一変更をした項目が31ページ。こちら赤い文字で記載をしておりますけれども、現在の計画では、「主要な観光施設への観光入込客数」というものを指標にしておりましたが、第1回から議論をしてまいりましたように、今は観光客や交流人口というよりも、何らかの形で犬山市に関わりを持っていただく方、一時的な訪問だけではなくて、どんな形でいいから犬山市に愛着を持って関わっていただける方を増やしていきたいというのが、今回の総合戦略の1つのポイントとしておりますので、ここでは「関係人口数」という指標をご提案させていただいております。</p> <p>「ずっといぬやま応援団登録団員数」とは何かというところのご説明が参考資料2。こちらのチラシの制度になっております。これは簡単に申し上げますと犬山市から転出された方で、転出後も犬山市を応援するよと言っていただいた方を登録する会員制度でして、一昨年10月から開始しております制度です。現状のところ、まだ17名しか登録はありませんが、これを大幅に増やしていこうという目標を立てております。こちらの項目について1点変更がありますが、他の項目について、変更はございません。令和12年の目標数値も、現在のこの「第2期いいね！いぬやま総合戦略」が令和6年までに達成しますと言っていた目標数値と変更しておりません。理由は、この第1回目の会議でお示したように、どの指標についても、目標は今回達成されていませんでした。ですので、引き続き目標数値をそのまま維持をしながら、新型コロナウイルス感染症の影響があったりして、施策が思うように進められなかった、もしくはそういったものが影響して、副次的に数字が伸びなかったというところもございますので、未達成だったというところをこれまでの間の社会情勢も踏まえて、引き続き同じ目標数値を設定していくということで、目標指標を定めさせていただいております。</p> <p>以上で議事の説明を終わらせていただきます。</p>
鈴木会長	<p>はい、ありがとうございました。</p> <p>皆さんもおそらくこの資料を読んで赤い字の意味が分かりづらかったのではないかなと思います。今の説明にあった通り、意見を反映させて、修正した箇所だということで皆さんにご説明いただきました。</p> <p>そういうご理解の上で、委員の皆さんが読まれて、お気づきになられた点があっ</p>

	たら、出していただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。
関谷委員	本来なら前回きちっとお伝えしなければいけなかったことなのですが、17ページの四角2「子育て支援計画を計画的に整備します」と書かれてあるところの3段目ですが、「園児たちが快適に保育サービスを受けられるように」という表現ですが、非常に子どもたちが受け身的な表現になっているなど感じます。ですので、子どもたちを真ん中に置くという政策だったことを考えると子どもたちが主体的にこの保育の場にいるというようなニュアンスの文言に変更されると良いのではないかと感じています。例えばですけれども、「園児達が健やかに育つように」というような文言に変えられると、もう少し子どもの主体性がここに表れてくるのかなと思いましたので、検討いただければと思います。
鈴木会長	「子どもたちが健やかに育つように」という文言への修正はどうでしょうか。ということ、提案をいただきました。これについていかがでしょうか。お願いします。
事務局（古田）	はい、ありがとうございます。以前の議論でも、行政目線の計画とするのではなくて、市民の目から見ても、「なるほど」と思えるような計画というようなご意見もありましたし、今のご意見については、良いご提案をいただきましたので、修正を検討して参りたいと思います。
鈴木会長	修正を検討していただくということで、最終的には私の方でまた決めさせていただきますので、そのようにご理解ください。 他の委員のみなさんいかがでしょうか。
宮地委員	はい。
鈴木会長	宮地委員お願いします。
宮地委員	3ページの右側観光客数のところについてです。「観光の恩恵を市域全体に行き渡らせることが求められます。」と記載もあるが、その恩恵って31ページですかね。31ページの黒丸の一番下です。「観光」を戦略的に展開し、と以下こういう記載があるわけですが、イメージが湧かないのですが、観光の恩恵を市域全体に行き渡らせるというのは非常に難しい話で、他の自治体もおそらくそんなに成功していない。オーバーツーリズム問題など京都もそうでしょうし。京都ほどではないでしょうが多かれ少なかれ観光地にはメリットとデメリットがあってメリットは特定少数に恩恵がある。デメリットは多くの市民の住みやすさに影響がある。これ具体的に何かお考えがあるのか、精神的な目標なのか。イメージとして市域全体的に行き渡らせるというのは、税金ではなかなか難しいと思います。その辺りの明確な回答はないのですが、どのようにお考えでしょうか。
事務局（井出）	おっしゃる通りなかなか難しい問題であると思えます。ただ、市としてもオーバーツーリズム問題を、指をくわえて見ているわけではなく、今、観光で税収がなかなか上がってない問題も理解している中で、検討しているのは観光税。例えば、駐車場税や宿泊税みたいなもので来ていただいた方からいただいたものでまわしていくなどを検討しています。 あと、城下町だけではなくて、施設に対する観光だけではなく、今は体験観光というものも出てきていまして、里山の畑であったり、自然体験のような形で地域の方がやられているものに、スポットライトを当てて、一緒になってやっていく中で、地域の方々も多少お金も潤うし、参加できるという形のものも、これは実際今もやっていますので、そういう形で問題解決にはなかなか繋がらないところはあるかもしれませんが、市域全体で取り組んでいくというような形で考えているところです。
宮地委員	ありがとうございます。

	<p>これは1自治体で取り組むことが可能な話ではないのだから、私は実現は難しいと思うのですが、これは個人的な見解です。本来であれば、例えば昨年度からの目標がありますよね。本来、それを交付税と同じように、それぞれの自治体が、その税収の何割かを自治体が得たっていいんですよ。当然1自治体で取り組むことができることでもないし。とはいえ、国にそんな動きがあるわけでもなさそうで、けど本来はそうですよね。結果、自治会とか市町村会だか知りませんが、全国的な組織でそういう働きかけをして、地域で落とす金で国が潤うのだったら、そのうちの何割かは還元せよという話を組織的に言わなければいけない。地方自治体の判断ではないけど、本来あつてしかるべきであると思うのですが、なかなか難しいと思います。そこまで市役所さんに言及するつもりはありませんが、個人的な見解としては、そう思っています。</p>
鈴木会長	<p>ご意見ありがとうございます。そこは今日、議員の方も2人委員として入っていますので、今後の議会の政策、審議を是非していただきたいと思います。犬山市は宿泊税の導入予定はありませんか。</p>
井出部長	<p>検討段階です。それが適切かどうかも含めて、他の自治体の状況を確認しながら、犬山市に合うかどうかを調べて検討しています。</p>
鈴木会長	<p>今、地方財政の関係で、学会とか或いは政策研究のグループなどは宿泊税の在り方と、その効果のシミュレーションにすごくお金使っていて、いろんな情報が出まわっています。この辺りだと金沢と、東海三県でいくと岐阜県高山市が、今年の10月から導入するという動きがあります。法定外普通税と言われるものですね。その辺りの効果測定、この辺りが色々調べられている。犬山市に合うかどうか、合うとしたら、それを是非検討していただくといいなと宮地さんのお考えにも即した答えが出せるかもしれません。</p> <p>他の委員の皆さんいかがでしょうか。はい、お願いいたします。</p>
佐曾利委員	<p>31ページの関係人口のところです。黒丸の4つ目で、「訪れた人がますます「犬山ファン」となって、「犬山に住みたい」につながます」ということで、住みたいに繋がっていく流れと、関係人口の応援団とどういうふうに関係していくのかなというところが疑問に感じたところです。自分が市民活動をしていくときに市外の方で関わってくださる方がいっぱいいて、そうした方々が犬山の中で活動している場合、人の交流というところは、何かしらの形で、数字を追っていきけるのではないかと考えていたりします。何かしら市のワークショップで市内、市外ととることもあるだろうし、例えば市民活動団体登録するときは、必ず市民だけでないといけないというルールはなくて、犬山を活動の舞台にするならば、市外の方でも全然大丈夫ということがあります。そういったところで、実は隠れ関係人口みたいな方々が既にいて、その流れから犬山に住むようになったみたいのところは何か追っていきけるようになるというかなと思います。犬山を離れた方が応援を続けてくれているという数値があるので、また別で新しい流れがやっつけられるものがあるといいなと思いました。</p>
事務局（古田）	<p>まさに今おっしゃるように、市外で活動している方が、活動をきっかけに犬山市にいらっしゃるといことも確かにあると思いますし、転入者のアンケートを市民課で取っていたりすると、そういった声もあるので、1つ指標としてありかなと考えています。ただ、その実数を掴むときに、なかなかそれをきちんと把握するのは難しいかなというところがありました。それで今回の質問の関係人口数と応援団の登録団員数が直接結びつかない気もするなというご意見については、逆に、転出理</p>

	<p>由がいろんな事情はありますが、純粋に転勤であったり、学校が市外や県外になったという理由の方も、ある程度いらっしゃいまして、そういった方が犬山市のことを忘れないでいてくださって、犬山の情報をこちらからも定期的にお流しするものですから、引っ越しをしていただくなかで、行った先でやっぱり犬山市いいところだったなと気づいて戻っていただくということをこの制度自体が大きな目標として持っているところもありますから、そうした場合にちゃんと数字で掴みやすい、本来求める関係人口というのは、将来的にはそういう定住に繋げていきたいということもありますので、今回この指標を設定させていただいたという経緯であります。</p>
鈴木会長	<p>この31ページの佐曾利委員がご指摘いただいたところで、関係人口の取り扱いがとりわけ面白いです。ずっといぬやま応援団、犬山出身の方をターゲットにしている。こういう意見はなかなかなくて、出て行く人はそれぞれご自身の事情だけでも、出ていく人の中でもまだまだ犬山を知らない。あるいは逆に犬山の良さを知って改めて良さを感知取って関係を持ちたいという方が現れて、そのあたり発想と焦点を絞った戦略をつくろうということですので。ですから、32ページ、33ページ、34ページあたりも見ると、観光という要素が強くて、観光人口、交流人口が目につく感じですけど、ところが、指標はそうではない。このあたりの運用の仕方は随分従来から変えていく、というそんな意気込みがあるのではないかと、というようなところでございます。</p> <p>他の委員の皆さん、いかがでしょうか。</p>
原委員	<p>私はこの会に、最初わけも分からず参加しました。それで、不動産をやっていますから、この土日にお城通りの旧犬山から、もう出たいというお客さんが2人もみえました。それで、この方もたぶん市長や市役所にも言っていると思うんですけど、あの町のあそこの通りの住みにくさをみんな分かっているかと。一生懸命犬山が、こうやってやろうとしているんだけど、本当にそこに住んでいる人の気持ちは分かるかってすごく言われました。申し訳ないけどここに来てみえる人の中で、あの通りに住んでいる方はどなたもみえない。そういう人たちの話をもっと聞くこと。本当に観光客、観光客である町はすごく盛んになりましたけど、地元の人がそこの店をやっていない。そこにも不満があって、市役所の方、十分承知だと思っています。それを私は初めて知って、楽田という離れた地域で、こういう大好きな犬山があって、と思っていたんですけど、その声をもうちょっと、今後になるでしょうけど、そういう声をもっと聞かなきゃいけないと思っている。出たいんですけど、みんなもう家売ってくれという話です。それが、あの近辺の人たちの本当の話、本当に大きなことだと思ひまして、今日はぜひそのこととお話したいなと思ひました。これとはちょっと関係なくなりましたけど。はい。そういう声が本当にすごくありました。</p> <p>以上です。</p>
鈴木会長	<p>今のことと関係してでもどうですか。</p>
鈴木(伸)委員	<p>そういうご意見とか、市議会の方でもよく入っています。鈴木先生とか水内先生とか、知識がある方の前であれですけど、要は、駐車場が増えてくるまちというのは多分住みにくいまちなんです。まさにそういう課題というのは、犬山の城下町が中心。じゃあどうするのかというところで、観光と地域住民とのバランスですよ。私も楽田に住んでいますけど、大変だなと思いつつも、楽田はいい環境だなと思いつつ。ただ、その観光で得た成果というのは、さっきの観光税もありましたけれども、観光で出た成果をどう市全体に広げていくか、というのは大きな課題だと</p>

	<p>思います。観光地だけに、その税金を観光客対策でやるのではなく、税金を何億円とかけているところ。市民の税金ということは市全域から集めている。それは市全体7万人にその観光の成果があるような施策というのは、そういうその観光戦略みたいな施策があるか、分かんないですけど、そういうのにももしも書き込まれていければいいなと思いました。大分はみ出しました。</p> <p>ありがとうございました。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他いかがでしょうか。松浦委員お願いします。</p>
松浦委員	<p>デザイン的なことで、他の市町村を見ていると総合計画にもジュニア版という、小学生とかお子様も見やすいように編集されたものを作られている市町村がありまして、もし可能であれば、このあたりが配慮されるといいなと思っています。</p> <p>私が確認しているものには、テキストみたいな感じで書き込めるようになっていて、この場面場面に自分の意見を書き込めるような仕組みになっているものもあります。犬山も「子どもが真ん中」という形で進めてくださっているのであれば、中身だけをみていると子どもたちのために、というのが見えにくいというか、もちろん子どもの施策は入っているんですけども、子どもが真ん中というのが見えにくいなとは感じていたので、そういった仕組みというか見せ方を変えてみることで子どもさんにも見やすいと良いかなと思いました。</p>
水内委員	<p>本当に最近ほどの市町村もこだわっていて、子ども向けであるとか、結構高齢な方にも見やすいだとか様々な方法を使って情報を届けること、義務があるというふうな認識で書かれているところが多くなってきていると思います。それは本当に市民参加を支える上では大事ですし、愛着をもってもらうためにも大事だと思います。この次のステップかもしれないですけども、これが1回できあがったら、本当に届いていないところにきちんと届けるための手段を考えることかなって思っています。</p>
事務局（古田）	<p>ありがとうございました。前回、前々回と見やすくこういうものを広く広げた方がよいというご意見を賜りました。まず、私どもとしてはこの大人向けというのもおかしいですが、この体裁のものを1冊整えていることは考えています。</p> <p>ただ、この先にある次に、概要版とってこのダイジェストであったりとかというのは作っていく予定をしていますので、そういった中で、お子さんに見やすい表現であったり、デザインであったりというのは、考えていく必要があります、いずれも今おっしゃられた伝え方は考えていきたいなと思っています。ので、まずはちょっと来年度以降の宿題としていただく形になるのかなと考えています。</p>
鈴木会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>お願いいたします。</p>
酒向委員	<p>お子さんですけど、結局これはどなたに渡すのですか。私、前回のものも見たことがないんですけど、どのような感じでPRされて、どなたに向けて印刷されるのかが見えません。</p>
事務局（古田）	<p>はい。まずは、ホームページには全ページ掲載させていただいています。おそらくすべての公共施設なんかにも、冊子を配架してある状態で、その存在をお知りになり、「これが欲しい」という方にも、お配りはしているところです。物によってはこの大元の総合計画というものを、割とボリュームもあり、販売にはなっていますが、ご希望の方には、お配り、お渡しをさせてもらっているということの準備はしています。ただ、今おっしゃったように、そもそもこの存在知らないわという</p>

	<p>ことではいけないので、作った段階からのPRも必要かなと今、意見をお伺いして感じました。</p>
鈴木会長	<p>さっき水内委員がおっしゃったようにやはり伝えるということが今、自治体の責任になってきている。自治体というよりも、行政ならびに議会の皆さんですね。これはやはり、審議をして議決し、そして運用していく、運用する側の責任だということ。そうすると、先ほど原委員おっしゃったように、住んでいる方たちも、自分の暮らしと照らし合わせて、「いや、こんなことだ」と言われたら、これをどうやったら自分の暮らしを豊かにするものに転換できるのか、いろんな相談が生まれて、行政との対話が始まっていくということもありますので、酒向委員のおっしゃる、誰に伝えていくのか、どう伝えていくか。そこはやはり、松浦委員、酒向委員がおっしゃったことを十分踏まえて、これの運用については、慎重かつ大胆に取り組むということをお今回はぜひお願いしたい。おそらくその先にこれが生きてくるのではないかなと思います。ぜひお願いしたい。そういうことでしっかりと伝えるということにしておきます。よろしいですか。</p> <p>では、宮地さんお願いします。</p>
宮地委員	<p>18 ページ。3 番ですけど、「あらたな商業立地を積極的にすすめます」のところ具体的に、「飲食店を中心に商業系の施設を積極的に呼び込みます。」これは以前こちらの会議でお話をして、それから市役所の別の会議で話したんですけど、私は持論としては、大規模商業施設を誘致するべきだと思っていて、市役所の別の会議でも無理だと言われましたし。でもそれはそれで、事情もあるでしょうし、現在は現段階ではそうかもしれませんが、幹線道路沿いの飲食店というのは、例えば、犬山市民前提で考えれば、そういうものが多くできたからといって食べる量が増えるわけでもないし。これも数を増やしても、良いととても思えなくて、それよりも私がお願いしたいのは、市民が外へ買い物に行く、その人達に市内で消費してもらおうという方が大事で。そうすると、飲食店だけではなくて、例えば電化製品にしてもそうだし、それから医療品、その他いろいろありますよ。だからそういうものを総合的な大規模商業施設のような大きな施設であれば、その1つ大きな商業施設の中で全てがまかなうことができる。今の犬山市はないわけですよ。だから、まずそれが私は大事ではないかなと思っています。</p> <p>以前別の会議でお話したら、一番大きな理由は扶桑のイオンは工場の跡地、大口のアピタも工場の跡地、犬山市で大きな工場が閉鎖されて跡地ができれば可能だけれども農地を転用してとかでは、県が許可をしない。そういうお話でした。私は実態がどうか知りませんので、そうおっしゃれば、そうでしょう。だからそれを県にかけあってどうこうという段階ではないかもしれないけど、将来的なビジョンとして、本当に商業施設を積極的に商業集積ラインに誘致したいと思っているのであれば、飲食店だけではなくて、むしろ飲食店よりも、今申し上げたようなジャンルの商業展開というか商業施設の方がより必要だろうと。そういうものを、ここのエリアにしても大規模な施設に飲食店や電化製品店など、これが1つの建物であれば、それはそれでいい。それが難しければ、幹線沿いに特定業者の専門の大規模な施設を誘致した方が、良いのではないかなと思っています。今後そういう方向でやっていただいた方が市民の生活、それから市の発展も好転するような気はしますので考えていただきたいと思っています。</p>
鈴木会長	それはご意見ということでよろしいですか。
宮地委員	はい。

鈴木会長	<p>分かりました。それでは皆さんいろいろご意見、おそらくたくさんあると思いますが、ひとまずこれまでいただいた意見がたくさんありまして、修正をかけてきましたが、これ以降、もしご意見ありましたら、また事務局の方にお出しただいてそれでお許しいただけるのであれば、そこをこの計画の方に反映させる形で1度修正を図れるものを図る。今の宮地さんのようなご意見はやはり、今後運用の段階で検討していくことなので、ご意見として賜って、そして活用していくというところで扱っていきたいと思います。それで特に今日皆さんからいただいたご意見は、しっかりと反映させるということで、中身を修正できるようにしていきたいと思いますが、皆さんそういう形で進めてよろしいですか。</p> <p>それで修正した内容については、私が今度は2月にこちらに来ますので、そこでこちらの方で確認をさせていただいて、その後1ヶ月間パブリックコメントの方に諮らなきゃいけない。</p> <p>また皆さんに中身を確認していただくというふうにして、ここが変わってないということであれば、委員としてもご発言いただければと思いますが、そんな段取りで、今後修正の作業の一任を私の方にさせていただいて、任せていただきたいということをお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。</p>
全委員	はい。
鈴木会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、いくつか内容についての修正箇所、今日もご指摘をいただきましたので、若干誤字もあるということが分かりましたので、そういうところは修正するという約束のもとに市長の方へ答申をさせていただくという、手順を取りたいと思います。</p> <p>それでは皆さんのご了解をいただきましたので、市長に入室をしていただきたいと思えます。</p>
鈴木会長	それと、名城大学の鈴木先生聞こえますか。最後の場になりますけれども、今、カメラを取りに行っている間に内容について何かご意見がありましたら一言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
鈴木(温)委員	特にございません。細かい点はいろいろこれまでも申し上げさせていただいていますし、以前お伝えしたことも反映していただいているようですので、特にないです。
鈴木会長	ありがとうございました。委員の原さんが、ぜひ鈴木先生にもご意見をいただくべきではないかとおっしゃっていたもので。
鈴木(温)委員	<p>そうですか。すみません。ありがとうございました。</p> <p>先ほどご意見で出された地元の方が、もう住みたくないとか外に出たいとおっしゃられたというお話、非常に私もなんと言うんでしょう、そういう意見もあるんだなと思ったんですけども、もしよろしければ、その理由について、どうして外に出たいかという理由についてちょっと伺いたいですけど。大丈夫ですか。</p>
原委員	先日お話をさせていただいた方は、本当に観光の通りの方ですけども、もう土日とか車で外に出れないです。そういうことがまず第1の理由で、観光でお客さんが来たものの、もうそこに住んでいると外へ出れないというのが第1の理由だそうです。
鈴木(温)委員	その観光客の方がたくさんみえていて、そういった影響でなかなか落ち着いて外歩けないっていうか。
原委員	車が大体出ることができません。一方通行ですし、でもその方もですけども、

	市長さんや市役所にそういう申し出はしているという話は、山田市長、田中市長の頃からそういう話をしていたみたいで。ただ本当に観光でよかったよかったで、済ませないでくれという話でした。
鈴木会長	鈴木先生、原さんからそういう説明いただきました。 それでよろしいですか。
鈴木(温)委員	はい。ありがとうございます。大変参考になりました。
紀藤委員	私は本町通りではないんですけど、そこから100メートルぐらい離れた駅前通りにおります。本町通りの友人も昔からずっと言っています。土日は、彼らはそこで車で出かけるということは全く期待してなくて、一本外れた大本町とか、そちらの方に駐車場を借りて、やっているということです。そこで車の出入りをしている。 そしてもう1つは家賃が入ってくるんです。私の聞くだけでは、9割ぐらいが住んでいらっしゃらない方が、その店舗経営をしていらっしゃると聞いています。ずっと前は、その方が商業店舗をやっていたので、国民年金で生活されている。ということは1ヶ月、6万5000円ぐらいの国民年金で生活するのはもう難しいので、どちらかという、痛しかゆしでね。本当は嫌だけど、お金が入ってくる。その葛藤ですね。だから原さんには、「もうこんなところ住みたくない。」と言われる。でも、一方ではお金が入ってくるから、仕方がない。そういうことが本音だと私の友人から聞きます。だから、事実はそのけど、どっちがいいのかなっていうことは、なかなか言えないんですけど、現実はそのことだと思っております。
鈴木会長	はい、ありがとうございました。 それぞれ皆さんご意見をいただきました。鈴木先生どうもありがとうございました。
鈴木(温)委員	どうもありがとうございました。
	市長入室
鈴木会長	はい。それではよろしいですか。 早速、答申をさせていただきます。皆さんの代表をして、今から市長の方に答申させていただきます。
原市長	よろしく申し上げます。
鈴木会長	犬山市長殿 次期犬山市総合戦略について。 答申。 令和6年6月19日付け6犬企第134号で諮問のありましたこのことについて、本審議会において慎重に審議した結果、別添のとおり、取りまとめましたので答申をします。 よろしく願いいたします。
原市長	ありがとうございます。
事務局(古田)	市長の方からのお礼のご挨拶を差し上げたいと思います。 よろしく願いいたします。
原市長	改めまして、こんばんは。 ただいま鈴木会長から、答申をいただきました。委員の皆さんには本当に熱心に様々議論を重ねていただき、思いのこもった答申をいただきました。心から感謝申し上げますながら、いよいよこれからパブコメに入って、4月には新たな「いいね!い

ぬやま総合戦略 2025-2030」、我々の犬山の方針を示す大切な思いが詰まった答申であります。思いを寄せながら、我々も臨んでいきたいと思っておりますので、本当にありがとうございます。

今、議論聞いているといろんなことを言いたくなるんですけど、どこまで言おうか悩みどころですが、簡単にお話をさせてください。今回このテーマの中に、交流人口ではなくて、関係人口を考えていこうということでいろいろ議論をしていただきました。もうこれは観光についてもこの関係人口というのは、非常に我々が大事にしていきたいと思っているんです。何で観光をやるんだと言われます。でも観光は、私達犬山にとって活かしていかなければならないと思っています。それはなぜかと言ったら、当たり前ですけど人口減少社会です。犬山市も 2030 年にはもう 7 万人を切りますし、2060 年には 5 万台になる予想をされています。

では、人口減るとどうなるかって言ったら、当たり前ですけど物を買う人いません。働く人もいなくなるわけだから、当然お店なくなっていっちゃうんです。働く場所がなくなっていくんだと思っています。でも関係人口をはじめとした観光客を大いにつなげることによって、そのお店が維持できるのは、犬山の強みだと思っていますので、簡単ではないことは分かっていますけども、そんな思いで、ただの観光ではなくて、これから持続可能な観光まちづくりのあり方として、私自身は考えていきたいと思っていますし、考えていかなければならないと思っています。

当然今のオーバーツーリズムについても、いろいろ地元の方ともお話をさせていただいています。私が市長になってからは、本町の方と定期的に意見交換をするようにしました。

もう最初は、本当にマシンガンで打たれているようにやられたい放題です。その中でも、真摯に向き合って、できることをやる。まだまだもちろん本町、城下町の皆さんは、鬱憤いっぱい溜まっていると思います。足りないことばかりです。でも、そうすることによって変わってきて嬉しいことがありました。それは何かというと前回の秋の会議、秋が終わったぐらいの会議のときに、本町の方とは定期的な意見交換をしました。要望をいろいろ聞きました。でもその中で、今までなかった言葉が生まれました。「私たちに何かできることはないのだろうか。」ということ、数名の方に言っていただきました。やはり我々も真剣に思いを寄せれば、住んでいる方も変わってくださるんだ、ということを思いましたし、我々もそんな思いで、これからも向き合っていきたいと思っています。

犬山の弱点は城下町、犬山城に集中していることです。だからそれを分散させていかなければなりません。だから、これから木曾川の河川空間のあり方を考えていきたいと思っています。あれだけ贅沢な空間はありません。今は犬山駅で降りて城下町に行って、また犬山駅に戻る。それを回遊性のある木曾川河畔を大いに生かしたい。今、木曾川は遠い存在です。でも私たち犬山にとって木曾川っていうのは、もう毎日の生活の営みであり、遠い木曾川から近い木曾川に変えていきたいと思っていますので、そういう思いでいきたいと思っています。

今日ここ 2 人、市民参加で委員として活動してくださっていますが、新しいパワーをどんどん生まれています。ご承知の方もおみえになるかもしれませんが、今善師野の方で竹明かりをやっている中心的なメンバーです。これは今までなかった。でも外から来た若い子が、犬山で竹明かりやりたいんだって言うってくれるんです。でもそれはただ、竹明かりを芸術・アートとしてやるだけではないんです。時代の SDGs に向き合って、ただ自分たちは今ある日本中の里山の再整備につな

	<p>げていきたいと思ってくれているんです。明かりを見せることによって、多くの方を引き寄せて、自分たちでやるだけではなくて、みんなで竹明かり作っていこうよって言って作り上げてくれたのが竹明かりアートであります。</p> <p>また、使っている竹はただ捨てるだけではありません。もう一度命を蘇らすために、炭にしたり、これからのあり方を彼らは考えてくれる。そんな熱い思いの方もたくさんいますし、今まで里山が、観光コンテンツには犬山も全国もほとんどなかったと思います。でもこれがきっかけで、大きなチャンスになると思っていますし、新たな冬という観光コンテンツができたということは、これから私たちにとっても、新たな観光のあり方が探っていけるんだと思っていますので、そんな思いで取り組んでいきたいと思っています。とても長くなっていますよね。すみません。</p> <p>最後にさせていただきます。思いはこれくらいさせていただきながら、「いいね！いぬやま総合戦略」がいよいよスタートします。その中で戦略案を皆さんには考えていただきました。本当に犬山には「いいね」いっぱいあるんです。もう言いません。もう長くなるから言いません。だから、犬山はまだまだ成長する潜在力の可能性もたくさんあるんだと思っています。もっと求心力のある犬山づくりができると思っていますので、この思いのこもった総合戦略によって、これから皆さんと一緒に課題いっぱいあるけども、これだけ熱い思いの皆さんがいるのであれば、その課題は乗り越えていけると思っていますし、そんな思いを皆さんと一緒にさせていただければと思っていますので、どうぞこれからも犬山づくりをぜひ一緒にさせていただきたいと思っています。</p> <p>改めてすべての皆さんに心から感謝申し上げながら、犬山の将来を見据えた新しい犬山づくりを皆さんと一緒に挑戦していきたいと思っています。これからもご指導賜りますようお願い申し上げます。終わります。</p> <p>ありがとうございます。</p>
事務局（古田）	<p>どうも皆さんありがとうございました。以上をもちまして第4回犬山市総合計画審議会の方を終了させていただきます。今後の流れですけれども先ほど会長からご説明がありましたように、パブリックコメントという形で、この案をベースに皆様から本日いただいた案、ご意見を少し踏まえて修正を加えながら、パブリックコメントという形で市民の皆様へ30日間の予定で、公開し意見を募集したいと思います。その時期としましては大体1月の下旬から2月の中旬にかけて、現在のところ1月29日からというような予定で考えておりますので、それまでに修正案を取りまとめ参りたいなと思っています。</p> <p>先ほど会長の方から、もしまたお気づきの点があればということがありましたけれども、また4月にはこの新しい冊子を作る予定になっておりますので、完成しましたらまた皆様のもとにお渡しをしたいなと思っています。よろしくお願いたします。</p> <p>以上をもちまして本日の会議終了させていただきたいと思っています。どうもありがとうございました。</p>
	<p>〈閉会〉</p>